

## 第9章 環境放射能水準調査結果

昭和63年度から、文部科学省からの委託を受け、環境放射能の監視を継続して行っている。平成23度の調査結果は表9-1、9-2のとおりであった。

平成23年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故の影響で、平成23年4月～6月に採取した大気降下物及び大気浮遊じんから、ごく微量の人工放射性物質が検出されたが、健康に影響のあるレベルではない。また、大気環境中の空間放射線量率は事故前と事故後で特に変わりがなく、水道水からは人工放射性物質が検出されていない。

表9-1 空間放射線量率の測定結果

測定年月	モニタリングポスト(nGy/h) 大分市高江		
	最低値	最高値	平均値
平成23年4月	49	62	50
5月	48	62	50
6月	48	71	52
7月	48	73	50
8月	48	71	50
9月	48	69	50
10月	49	64	51
11月	49	59	50
12月	49	66	50
平成24年1月	49	65	50
2月	49	73	51
3月	49	77	51
年間値	48	77	50

備考1 nGy/h:1時間あたりのγ線の吸収エネルギー量

表9-2 環境試料中の放射性物質濃度

試料名	試料数	採取場所	単位	核種名 I-131	核種名 Cs-134	核種名 Cs-137	
大気浮遊じん	4	大分市	mBq/m <sup>3</sup>	N.D	0.054	0.061	
大気降下物	12	大分市	MBq/km <sup>2</sup>	0.76	0.83	0.85	
上水	1	大分市	mBq/L	N.D	N.D	N.D	
土壌	(0～5cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	N.D	N.D	45
	(5～20cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	N.D	N.D	6.5
精米	1	宇佐市	Bq/kg・生	N.D	N.D	N.D	
野菜類	2	宇佐市	Bq/kg・生	N.D	N.D	N.D	
牛乳	1	竹田市	Bq/L	N.D	N.D	N.D	

備考1 Bq : 一時間あたりの放射性核種の崩壊数

2 N.D: 検出されない

3 大気浮遊じん及び降下物中の放射性物質濃度は最大値を掲載している。